

2022年9月26日  
旭川地区バスケットボール協会U12部会  
技術委員長 中川 明  
(文責 矢野 寿典)

## 2022年度 夏期大会 総評

夏期大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中での実施となり、残念ながら辞退するチームもありましたが、当麻大会の反省を生かし、各チームがそれぞれの課題に取り組み、気迫溢れる強いプレーが多く見られました。

前回大会は新チームになってから初めての大会であった為、個人技に頼ったオフェンス(以下 OF)が目立ちましたが、今大会はドライブ後のアシストパスやキックアウトのプレーが多数見られました。これは、単に OF 能力の向上だけでなく、相手のディフェンス(以下 DF)がドライブ対して、正しいポジショニングからヘルプを行っている為であり、チーム全体としてのバスケットボールの成長が見られました。

課題点としては、主に3つが挙げられます。1つ目は、前回大会の総評にもあったように、トラベリングについてです。突き出しのドリブルよりも走り出しが先になってしまい、特にオープンステップからのドライブにトラベリングが多く見られました。オープンステップの突き出しは、基本的に「1歩目と1つめのドリブルが同時」または「ドリブルを先に落としてから1歩目を踏む」ことが大事です。今一度、子供達とトラベリングの知識(ルール)について、確認する必要があると思います。

2 つ目は、アイソレーションの問題です。能力の高い選手がボールを長く持つことは、確かにチームの安定に繋がりますが、一方でオフボールの選手の考えが、「シュートをする(ボールをもらう)為の動き」では無く「エースの邪魔をしないように」に変わってしまうと、他の選手の成長を阻害してしまいます。また、能力の高い選手も、自分自身がドリブルをしている状態からの OF に偏ってしまうと、仲間のドライブに合わせる技術や、スペース・タイミングを見て飛び込むなどの技術、オフボールの段階で自分のDFを振り切ったからのミートドライブなど、複数人が関わる OF の基本的な技術が身につかなくなってしまいます。【JBA マンツーマン推進の趣旨】にもある、「発育・発達段階に応じた適切な指導で選手をより高いレベルへ導く」為、すべての選手が意図をもって動くことをチームとして取り組んでほしいと思います。

3 つ目は、シュートバリエーションについてです。片手でボールを扱う事に不安があり、キャッチの際に、DFが取りやすい身体を中心位置にボールを持っている傾向にあります。ランニングプレーやストップからのステップイン・ステップスルーの際にもポジションでは勝っていても、フィニッシュが上手く行かないことが多く見られました。パワーレイアップやフックシュート・フローターなどに繋げる為にも、キャッチの際にDFから遠いところでキャッチする事と、片手でのボールコントロールが大事です。近年取り組んでいる女子選手のワンハンドシュートについても、ボディバランスを崩しながらのシュートやボールコントロールのし易さなど、メリットが多くシュートバリエーションの広がりにも繋がりますので、技の発展や上達の為、ぜひ取り組んでほしいと思います。

最後に、選手権大会まで残り約2ヶ月となりました。全道・全国へ繋がる大会に向け、体調管理に気をつけて心と体の準備してほしいと思います。一人一人がそれぞれのゴールを目指し、力を発揮する姿に期待しています。